

Vol. **184** 2023.春



MOKUME

特集

《令和5年度》

各委員会事業計画

連載

【頑張る企業訪問記】

アキツ工業株式会社

吹き抜ける風が漂う春の
やさいに溢れる季節です。



一般社団法人

日本木造住宅産業協会

CONTENTS

木 芽 vol.184

新春号
令和5年(2023年)
4月20日発行

折々のひとひら 1

特集 令和5年度 各委員会事業計画について 2

木住協NOW 株式会社 成匠が山口県と「やまぐち建築物木造化推進協定」を締結 6

連載 会員会社ニュースがんばる企業訪問記／アキツ工業株式会社(大阪府) 7

連載 木造ハウジングコーディネーター奮闘記／ナイス株式会社鈴木雅人さん 11

木住協NOW 木造ハウジングコーディネーター試験成績優秀者表彰 13

連載 日本の世界遺産探訪／福岡県 宗像・沖ノ島 15

木住協NOW 「住宅税制改正セミナー」を4年ぶりに対面開催 17

令和4年度 北海道支部総会開催(北海道支部) 18

東北支部 視察レポート(東北支部) 19

令和4年度 神奈川支部定時支部総会開催(神奈川支部) 21

「長野県 松本城」歴史的建造物視察レポート(中部支部) 23

令和4年度 近畿支部定時支部総会開催(近畿支部) 25

資材・技術委員会主催 研修見学会(近畿支部) 28

新委員長紹介 31

新規会員紹介 32

連載 木の匠 Historia／春風萬里荘(茨城県笠間市) 33

支部だより

木住協NOW

連載

『友』・・・手と手を取りあう姿

数年ぶりのようにも感じる、今年の春。

門出を囲む彼らのそこは、桜舞う日本の春。「春を、吸い込んでいいのだよ」と、お許しが出たようにも感じる、ひとしおの春。

こころばらく、私たちは、何を想い、過ごしていただろうか。めまぐるしく変わる状況や、あまたに交錯する想い。人と人との関わり方に変化・対応を余儀なくされる日々を経たとても、変わらず、いま、そこにあるものは、何？

漢字『友』は、右手と右手が隣にある姿を表している。右手の象形と、右手の象形。一、二画目で、ひとつの手の象形。三、四画目で、もうひとつの右手。一、三画目は、共に、親指から小指を弓型に象った線。二、四画目は、中指から腕を象った線。

ひとりの人間に、手がふたつあった時には、右手がふたつではない故に、右手がふたつ並ぶということとは、二人の存在が、そこにあることを、間接的に伝えているのである。

漢字は、しごく図象的に成り立った象徴的な文字らを組み合わせる段階で、当時の思想的なものや価値観の伝聞を増幅させようとする。私たちが、当然のように体得し、文字として利用している漢字やそこから派生した仮名は、生命もさらされ、陰しく厳しい自然界との共生の中にこそ、生まれてきた。私たちが、今般、数年に亘り関わらざるを得なくなった生活・社会環境は、酷なものであったし、耐えがたい痛みが残ったものであったことは、今後永代に変わることはないが、古への人々も、計り知れぬ波を越えてきてくれた故に、現在があったことも忘れたくない。

世では、天災や争い、落ち着かぬ情勢が、多くの局面で続いており、個々人では、もう如何様にもと思ってしまう。しかし、どうだろうか？ 古への産物のひとつである、漢字

成り立ちに沿えば、右手と右手は寄り添うものと説いている。

どうかどうか、その右手は、となりの右手に寄り添うようにあってほしい。

幾波越えた古へからの、そんな春の便りが聞こえてきそうだ。

書家・文字文化文筆家 宇佐美 志都



令和5年度

各委員会事業計画 について

技術開発委員会

委員長 逢坂 達男



1. 省エネ基準適合義務化への対応

2050年カーボンニュートラル、2030年温室効果ガス排出マイナス46%に向け、昨年6月、建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律が改正され、2024年4月には建築物の販売・賃貸時の省エネ性能表示制度や2025年4月には住宅や小規模建築物の省エネ基準の適合義務化が予定されています。住宅等の建築に際し、省エネ基準適合が建築確認済証の交付要件となり、外皮性能や一次エネルギー消費量に係る基準適合や現場検査が求められますが、必要図書の整理や申請手続きに加え、工事中の計画変更への対応等も含め整理し、効率的な運用開始に向け準備を進めます。

2. 木造4号特例見直しへの対応

2025年4月、木造の4号特例が見直しとなり、構造関係規定を含め建築確認や現場検査での審査が始まります。また、省エネ性能の高いZEH水準の住宅等は重量化していること等を踏まえ、必要壁量や柱の小径等に関する構造関係規定の追加整備等も予定されていますが、建築確認手続きや現場検査の効率化に向け、関係図書の整理に加え工事中の軽微な変更や計画変更への対応等を含め整理し、効率的な運用開始に向け準備を進めます。

3. 中大規模木造建築の普及

住宅以外の木造の普及に向け、昨年度、構造用合板を用いた壁倍率20倍相当（許容せん断耐力40kN/m）等の高強度な耐力壁の検討を行い、課題の整理や改善法の提案等を整理しました。引続き、高強度耐力壁や接合金物の開発等を行い、より合理的な構造計画の提案等木造建築物の普及に努めます。

4. 耐火性能の高い木造建築物の普及

建築基準法の耐火建築物の規定が一部緩和され、最上階から4層は1時間耐火、5層～9層までは1.5時間耐火構造とすることが可能となりました。これまでの2時間耐火構造に対し、せっこうボード等の被覆厚さの軽減や燃えどまり層による「木現し」等も可能となることから、より合理的な木造耐火構造の開発や「木現し」等の提案を行います。

5. 支部、関係団体等との連携

関連団体の技術系の各種委員会・WG等に木住協委員として積極的に参画し、関連情報の収集と会員への発信を行うとともに、木造軸組構法の業界団体として、要望・提案等を行います。

生産技術委員会



委員長 秋本 正人



生産技術委員会では、業界団体として木造住宅施工に関する様々な施策検討の場に参画し、会員意見の反映並びに情報収集に努めるとともに、認定団体としての既存住宅状況調査技術者講習や各WGの活動成果に基づく講習の実施及び動画配信などにより、主に現場管理者を対象とした人材育成に努めております。特に近年における著しい施工環境の変化に伴う各種法令改正や行政施策への対応に関しては法令順守に直結することから、主要なWG活動ごとに内容検討のうえ情報発信に取り組んでおります。

1. リフォーム関連

リフォーム現場においては既存住宅の状況を把握して設計・施工を行う必要があり、規模、内容が多岐にわたり、多くの場合はお客様の日常生活と並行して工事を進めていく難しさがありますが、そのようなリフォームの工事管理について解説するテキストは少ないことから「リフォーム版施工管理チェックポイントマニュアル」の作成に取り組み、今年度の発刊ならびにセミナーの実施を予定しております。

また、政府の高断熱住宅推進施策においても窓断熱などを始めとしたリフォーム工事に向けた内容が多種発表されていますので、これらの活用と併せて安心R住宅の利用拡大にも取り組んでまいります。

2. 生産管理関連

2020年度国勢調査の結果に基づく建設業従事者数の分析によると、建築大工、屋根、左官、タイルなどの業種は5年減少率が20%前後で推移しており、建築大工においては2035年予想就業者数が10万人程度まで減少すると予測されております。また、資材価格の高騰や来年度より施行予定の建設業における時間外労働規制の見直しの他、現在周知中のインボイス制度など、木造建築の事

業環境はより厳しさを増しております。

生産管理WGではDX化などの生産性向上施策や関係法令の改正に関する情報発信を通じて、会員各社における施工体制の整備と適正な現場管理手法の啓発に取り組んでまいります。

3. 安全衛生・CS関連

建設業における死亡災害は昭和44年の2,492人から令和3年の288人まで50年間で約1/9まで減少し、死傷災害についても同様の傾向となっています。今後更なる減少を図るためには、重篤化しやすい墜転落災害の対策強化に加えて、比較的災害発生リスクの高い一人親方、外国人、高齢者に向けた指導のため、建災防主催による一人親方安全講習の開催協力を予定しています。また、CS向上に向けたテキストとして「現場で発生する顧客の不安要素と防止策」を作成しセミナーの開催を進めてまいります。

4. 建設副産物関連

石綿含有建材については、以前より建築物や工作物の解体・改修工事を行う前に石綿使用の有無に関する調査の実施が施工業者に義務付けられていますが、2022年4月より、一定の建物規模および施工金額を超える場合の調査結果について行政への電子報告が必須となり、更に2023年10月からは、有資格者による事前調査実施の条件が追加されるなど、より厳格な対応が求められています。

建設副産物WGではこれまで石綿関係法令の解説に関する動画配信を行い、多くのご視聴をいただいております。今後も実務の進捗に対応した具体的内容の理解に役立つ解説動画を配信してまいります。

資材・流通委員会



委員長 入山 朋之



昨年度は第6回木造軸組工法住宅における国産材利用の実態調査データの深堀り調査を行い、地域、供給戸数などで国産材率や国産材を使う理由の傾向の分析を行いました。本年度は2024年度実施予定の第7回調査

に向けて、調査内容の検討に入る予定です。

また、昨年10月に発足した「資産価値のある高耐久住宅研究WG」では耐久性の高い住宅の普及に向けた外皮

(屋根、外壁等)の具体的な仕様を検討することから資産価値の向上に向けた取り組みを開始しました。

例年通り、セミナー開催・情報誌発刊・視察・調査研究を通じて、木造・木質に関する裾野をさらに広げていく活動にも努めていきます。

1. 資産価値のある耐久性の高い住宅の普及に向けた建物外皮に関する資材および関連サービスについての調査・研究

高耐久化に必要な建物外皮(屋根、外壁他)を構成する高品質建材・工法仕様について、工法仕様や維持管理の視点も含めて取捨選択し、システムとして提案できる関連資料を取りまとめます。また、まとめた資料を元に、LCCシミュレーションや、住宅履歴活用に向けた制度の検討に進めていきます。

2. 住宅政策・制度、マーケットの変化に対応した新技術・新製品の情報収集・情報提供

①セミナーの開催:政策や新しい技術・製品に関する目新しいトピックスやテーマについて、行政や団体、企

業を講師とするセミナーを開催し、会員の情報収集と知識向上に寄与します。

②工場・施設等の視察:委員会活動として、関連企業の工場や新しい木造建築物を視察し、委員の知見を深めます。

3. 新製品情報発信による良質資材の普及

建材・住宅設備機器等の情報誌「Select the Best」を年4回発刊、夏・冬号は「住まいのトレンド」として2種会員の新商品紹介、春・秋号は「商品開発の軌跡」として開発秘話や苦労話を通じた商品の魅力を紹介します。

4. 木造住宅に係わる資材・流通の調査と木材利用の促進

①第7回「国産材利用の実態調査」(2024年度実施予定)にむけた調査項目の検討を始めます。

②内装木質化の推進:「内装木質化ガイドブック」の法令改正に対応した内容の見直しと掲載情報の更新を必要に応じて行います。

業務・広報委員会



1. 広報活動

ホームページの利便性を向上させ、情報をより見つけやすくするとともに、内容の更なる充実を図ります。

メールマガジンにおいては、講習会・セミナー情報の他、住宅税制改正や、補助金の情報など会員に役立つ情報をタイムリーに発信するため、情報収集方法の検討、配信手法の改良、開封率やクリック率の調査等を行い、適時適切な会員への情報発信を行っていきます。

また、記者発表会や懇談会を通じて、協会や委員会活動等のより効果的な広報活動に努めます。

2. 機関誌「木芽」

本部・支部の事業活動を広く普及させるために、本年度の取り組みや各委員会の活動状況、「頑張る企業訪問記」等による会員の取り組み事例紹介、また各支部の活動における、応急仮設等の取り組み、セミナー、視察会など、話題性のある出来事や情報を積極的にキャッチし、会員に役立つ内容の充実を目指します。

委員長 村岡 照生



3. 作文コンクール

本年度も「木のある暮らし」をテーマに、国内外の小学生を対象に作文コンクールを実施いたします。今回で26回目を迎え、より応募しやすくするために募集方法や期間の見直しを行います。また、ホームページ内「木々の森」サイトのリニューアルに伴い、より“木育”に繋がるコンテンツを作成し、木の良さ、木の可能性などの普及に努めるとともに、作文コンクールにも繋がっていきます。

4. 自主統計および着工統計の分析

本年度も継続して調査を実施します。調査項目は着工棟数から様々な住宅性能に至り、集計したデータは「自主統計」としてまとめます。国土交通省の「住宅着工統計」と比較し、分析、解説を加え、会員の事業活動に役立つ資料を目指します。昨年よりWEB回答も可能となっておりますので、ご協力の程宜しくお願い致します。

5. 木造ハウジングコーディネーター資格制度

お客様から信頼される人材の育成やスキルアップを目指し、1種会員のみならず、2種会員（資材流通系）まで幅を広げ、企業の新人教育カリキュラムとして活用いただく等、ベテランから新人までより多くの受験者を募ります。講習会や試験の内容の充実とWEBを活用することで、受験者がより効率的に学習できるように努めます。また、資格取得後の利用状況を把握分析し、5年ごとの資格更新にも注力します。

認定事業推進委員会



1. 「木優住宅」取扱い事業運営

令和4年度(2022年度)の木優住宅登録実績戸数は、26,026戸となり、目標の19,000戸を超えることができました。内訳は、住宅保証機構(株)「まもりすまい保険」が11,761戸、その他の保険法人4社((株)住宅あんしん保証、(株)日本住宅保証検査機構(JIO)、ハウスプラス住宅保証(株)、(株)ハウスジーマン)で計14,265戸でした。木優住宅は、昭和63年(1988年)高耐久性木造住宅制度の高性能団体から始まり34年を経過し、取扱件数が50万戸を達成しました。今年度は、木優住宅50万戸達成記念として色々な企画を考え、より一層の普及促進に努めます。

保険業務に関しては、申込書類の簡素化、合理化を推進するとともに、『木優住宅』未利用会員や、新規会員へ周知徹底の強化を図ります。また、各保険法人では、住宅瑕疵担保責任任意保険(2号)である、延長保険、リフォーム瑕疵保険、既存住宅瑕疵保険等の拡充を進めています。当委員会では、それらの情報収集、団体取扱い、団体割引導入への検討をしていきます。併せて、設備保証、非住宅瑕疵保険、複数検査等についても、会員への情報提供をしていきます。

2. 「木優住宅」の瑕疵保証事故の抑制

講習会、セミナーは例年通り、瑕疵保険事故の抑制をテーマに絞り、戸建住宅の保証事故の9割超が雨漏りであることに着目した、「木造住宅の事故事例及び雨仕舞の施工実技講習」を、実棟模型で屋根取り合い施工実演等の講習を開催しました。また、「宅地地盤に関するセミナー」では、宅地地盤の情報提供や、失敗事例から学ぶ事故対応の現実と安全対策等の解説をしました。今年度も、「雨漏れ事故抑制セミナー」「宅地地盤に関するセ

6. 研修

「住宅金融・税制」「省令準耐火」「スピードスケッチ」「省エネセミナー」を軸に、それぞれ営業現場に役立つ知識の定着を図ります。セミナーの開催方式は、より受講しやすいよう、対面型とオンライン型を用意し、WEBでの配信も行います。また、「税制ガイドブック」作成、頒布するとともに、セミナー等でのサポートを行っていきます。

委員長 新居 健二



ナー」を継続的に開催します。また、コロナ禍で3年間休止していた「木造住宅不具合実証実験セミナー」についても実験を計画し、実証結果の報告等の講演を開催します。

3. 木造軸組工法住宅の管理体制の向上

木造住宅検査員監査について、コロナ禍で、書面監査を実施してきましたが、今年度は従来実施していた訪問型の現場監査を再開する予定です。各会員企業に訪問し、現場の生の声を伺うことで、より一層の施工品質及び管理体制の向上を図ります。

4. 「木住協保険」取扱い事業運営

「木住協総合補償制度」は、「工事総合保険」「業務災害補償プランビジネス」「ネクスト」「サイバーリスク・情報漏えい総合補償プラン」を取り扱っています。中でも、「工事総合保険」は、平成23年に発足して13年度目となり、8つの特徴を掲げ、令和4年度(令和5年4月1日始期)は77社(昨年度同数)の加入となりました。併せて、(株)住宅あんしん保証の商品「あんしんとくどく倶楽部」の販売も実施しています。

また、木住協版地盤保険制「The PERFECT 10W」の実績は276社、ジャパンホームシールドの「地盤サポートシステム[SDS]」の実績は28社となり、今後も利用促進を図ります。

5. 住宅瑕疵担保履行法の対応

各保険法人と連携をとりながら、必要に応じて、会員への説明会やHP掲載等にて、最新情報を公開していきます。

株式会社 成匠が山口県と 「やまぐち建築物木造化推進協定」を締結

株式会社 成匠（山口県山口市 1種A正会員）は、令和4年7月22日に、山口県と「やまぐち建築物木造化推進協定」を締結した。この協定は、非住宅建築物等における山口県産木材の利用促進を図る県独自の制度である。株式会社 成匠の理念・方針とも合致しており、今後は、県産木材の利用促進に向けた山口県の取り組みに積極的に協力していく姿勢である。

非住宅の新築建造物のための 県産木材利用促進制度

株式会社 成匠は、これまでも一般住宅については県産木材を使用してきたが、今回、非住宅の新築木造建築物を受注するにあたり、「やまぐち建築物木造化推進協定」が創設されていることを知った。この山口県独自の制度は、住宅以外の事業用建築物等への県産木材の使用にあたって補助金が出るもので、施主様にもメリットがあることがわかった。さらに、地域に根付いた工務店としての企業理念・方針とも合致しており、山口県との協定締結を決定することとなった。

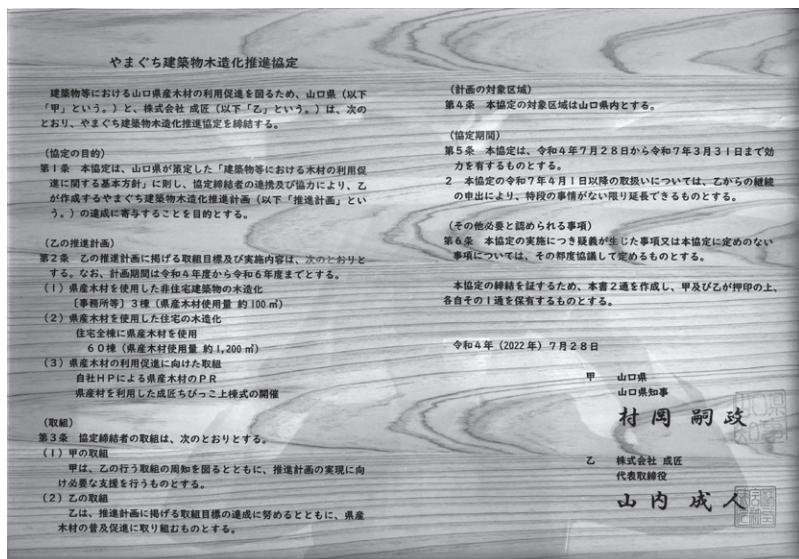
最近の県産木材を使用した新築の受注状況としては、一年間に一般住宅が平均で20棟程度、非住宅の建築物は1棟程度となっているが、今回の協定締結を機として、事業所用建築物等にも県産木材を使用していくように働きかけていきたいと考えている。



山口県産木材の利用促進に向けた PRイベントにも参加

県産木材利用促進のその他の取り組みについては、山口県の農林水産物需要拡大協議会の LINE ミニアプリ「ぶちうま!アプリ」に登録しており、山口県産の木材を使っている工務店として株式会社 成匠の活動を紹介している。

また、年一回五月に開催される子供イベントでは、小さいお子さんを対象として県産木材を組み立てて大工仕事を体験してもらう「成匠ちびっこ上棟式」を実施して好評をいただいている。株式会社 成匠としては、今後とも県産木材利用促進のための山口県の取り組みに積極的に協力していく姿勢である。



会社概要
株式会社 成匠(なるしょう)
代表取締役 山内 成人
所在地 山口県山口市大内中央2丁目1番32号
TEL 083-902-9440
FAX 083-902-9004
フリーダイヤル 0120-976-957
URL <https://narusho.com/>

お客様のためになることをし、 喜んでいただくことが私たちの幸せ

アキツ工業株式会社(大阪府)

Interview

大阪梅田から二駅の野田駅は、ショッピングセンターやマンション、古い商店街や住宅の新旧が混在する街。駅から淀川方面へ歩くと、アキツ工業株式会社がある。1974年(昭和49年)大阪市福島区福島で創業。1990年に本社社屋を現在の大阪市福島区海老江に移転した。公団の小規模修繕工事から始まり、戸建住宅の設計・施工、集合住宅の大規模修繕・改修、施設など非住宅の設計・施工と、時代と共に事業を拡大している。現在はアキツ工業、株式会社アスカ、株式会社ニッシンクリエートの3社からなる、住宅総合産業を目指す「アキツグループ」で業務を運営。戸建や非住宅は木造を得意とし、「やさしい木の家プラン」などを提案している。

現在の社長は、経理畑から2年前に就任した6代目の清水浩明氏。アキツ工業の創業や歴史、バブル崩壊後の苦労、時代で変化する事業や今後の目標、木造住宅へのこだわりなどをお伺いした。

代表取締役社長
清水 浩明氏



時代と共に変化し続ける 50年の道のり

来年の11月で50周年を迎えるアキツ工業の創業の切っ掛けは、とある中堅ゼネコン会社が業績不振で吸収合併された時、3人が退職して会社を立ち上げたのが始まりである。当時は団塊ジュニアの時代で、既存の公団の一増築が盛

んだ。この小規模修繕・改修工事の請け負いを目論んで、アキツ工業はスタートしたと清水社長は語る。「ちょうど第二次ベビーブームだったのですが、なかなか受注が取れず資金繰りも上手くいかず、目論見ははずれてわずか2、3年で倒産の危機に迫りやられました。そこで創業者である3人が助けを求めたのは、前の会社で営業の神様といわれていた

岸田氏という人物です。岸田氏は当時既に独立し、トーヨー産業株式会社を運営していました。そして、1976年に救済という形でアキツ工業とトーヨー産業は合併。トーヨー産業は元々電気工事を中心とする仕事をしていましたが、合併を機に戸建住宅の事業に進出し、合併後は公団の小規模修繕・改修工事と戸建住宅の事業でスタートしました。さらに岸田



「永く使うものだから、安心な住宅を」がコンセプト。木のやさしさを感じる内観。



伝統にモダンなデザインを取り入れ、天然素材に包まれる落ち着いた和室。

氏がどんどん大手に営業をかけたので、戸建住宅の受注が拡大。集合住宅も小規模修繕・改修から大規模工事を請けるようになりました。アキツ工業の創業は1974年ですが、1976年の合併が今の会社の基礎になったと私は思います」。その後、さらに公団の受注を増やすために分社化し、1979年に株式会社アスカ、1982年に株式会社ニッシンクリエートを立ち上げグループ化へ。このグループは、戸建木造住宅の建築と集合住宅の修繕・改修工事を2本柱とし、3社で地域を分け、その地域に住む方とのふれあいを大切に直に接する仕事を行っている。現在、アキツ工業の事業比率は戸建木造住宅の建築が45%、集合住宅の修繕・改修工事が45%、その他10%である。

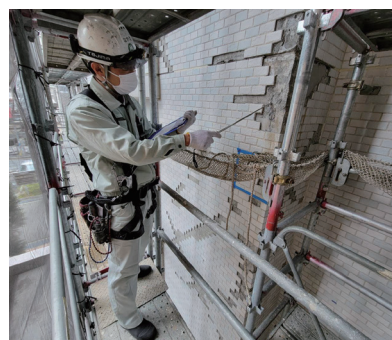
合併後の社名は、公団と取引のあったアキツ工業の名前を残した。アキツ工業の社名の由来は、日本最古の歴史書『古事記』から取ったもの。日本国の美称で「大倭豊秋津島(おおやまととよあきつしま)」という言葉があり、ここからアキツと名付けた。また、「秋津(あきつ)」は虫のトンボの古名で、やはり古事記にも登場し、

この意味も含んでいるという。「トンボは実りの多い土地にしか生息しないといわれています。ですから、私たちが仕事をさせていただいた土地は、必ず実りの多い土地になるようにという願いも込められています」と、社名に纏わる素敵な話をお聞きました。

基本理念は、社員と顧客、取引業者のための会社であること。「お客様のためになることをし、喜んでいただくことが自分たちの幸せだと私は考えています。喜んでいただいた先のお客様の行動はわからないですが、きっと悪い方向には行かないと思います。それが社会貢献にもなると私は思います」。

様々な経験を活かし 会社を立て直す

清水社長の経歴はとても独特で、卒業後の就職先は地方銀行だったという。「学生時代から何になりたいかなど考えていなく、就職先は世間的に良い職業とされている銀行に入社し、3年間営業でした。その頃、交通事故に遭い、その相手が勤め先のお客様でした。ほとんど相手の過失でしたが、会社からは



長年培ってきた技術と経験を用いる、集合住宅の修繕・改修工事。

折れろといわれ、自分としてはその対応に納得がいかなかったので退職しました。その後、知り合いの会計事務所に就職先を紹介してもらおうと行きました。ちょうど確定申告の時期で事務所が忙しく、手伝いを頼まれてそのまま8年間その会社にいました(笑)。その会社でアキツ工業の2代目社長の奥さんと同僚になり、一つの会社でじっくり仕事をするのが向いているといわれ、一年間迷った末1994年にアキツ工業の管理部に入社しました」。アキツ工業に入社した初日に、財務内容の書類を見て後悔したと清水社長は当時を振り返る。「とんでもない会社に入ってしまったと思うくらい、財務内容が滅茶苦茶でした。ちょうどバブルが崩壊した頃で、その後3年くらい



一戸一戸表情豊かなデザインで、上質な街並みを創造する分譲住宅。

で銀行の貸し渋り貸し剥がしがあり、財務内容を元に戻すというよりもなんとか繋いでいくという毎日で、入社から15～20年はとても苦しみました。社長や取締役と何度も喧嘩をし、なんとか乗り切り、今では前向きに仕事ができるまでになりました」。

プライベートではゴルフが好きで、月2～3回はプレーするという。「ゴルフは気持ちがいいですね。夢は一生に一度ホールインワンをすることです。もちろんホールインワン保険にも入っていますが、全然使えないです」と、笑いながら楽しそうに話す。

家づくりは 敷地をよく観察することから

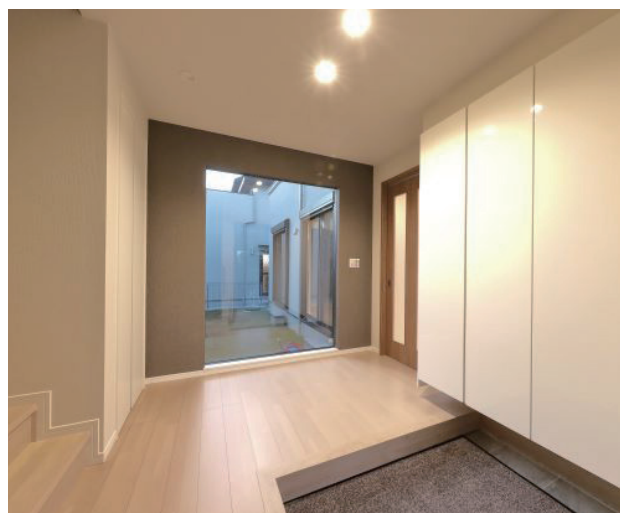
いままでに手掛けた戸建住宅は、注文・分譲合わせて約4,000戸になる。戸

建住宅は木造軸組工法とツーバイフォー工法の設計・施工から入居後のメンテナンスまで、トータルで暮らしをフォローする。特にこだわっているのは、敷地をよく観察することから始めること。敷地の近隣状況、季節ごとの日照時間、日当たり具合、風の通り道など、その土地の持つ条件を検討。敷地と建物と太陽の位置を考慮することは家づくりにとって非常に重要であり、太陽の軌道を考慮した上で冬の暖かい陽射しは住まいの奥まで取り込み、夏の強い陽射しはうまく避けて心地よい日かげを生み出すように、建物の配置を考えているという。「25年前に自分の家をアキツ工業で建てました。その時に敷地の状況の説明がくどいくらいあり、面倒くさいと思いましたが、住んでみて説明されたことの大切さを実感しました。特に風の通り道などはよくわかります」。

人と人との繋がりが未来をつくる

今後、重視していくことの一つとして人材の問題があるという。少子高齢化などで業界の人手不足は深刻で、業界新聞によると、2022年度の業界人口は前年に比べ約6万人減。内訳は、男性が約8万人減、女性が約2万人増だと清水社長は問題を提起する。「当社も社員を募集すると、施工管理の仕事がしたいという女性が最近増えています。過去に女性を何人か採用しましたが、続かなかったというのが現状です。これからは、受け入れ体制や社内全体の意識改善をし、女性社員を増やしていきたいと考えています」。その他の人材対策と

して今後行っていきたいことは、「定年や独立、他の会社でのスキルアップなどが理由で辞めていく人間を全部OBと捉えて、年一回くらい懇親会を開催したいと考えています。会で様々な情報交換をし、新しいビジネスチャンスが生まれるかもしれません。引退した人でも、ちょっとした仕事や知識でお手伝いいただけることがあるかもしれません。また、思っていたより上手くいってない人には、もう一度当社で働いてもらうなどのネットワークを築いていきたいと思っています」。この取組みは徐々に進んでおり、個別や少人数での会は実施しているという。経験者や年配の方を大切に、さらに新入社員の採用も積極的に行っている。「会社は常に若返りが必要ですし、この人に聞かなくてはわからないという属人化をしないように気をつけなくてはいけないと考えています。新入社員をしんどくても採用して教育していく、それが10年、20年先の会社存続のためになる。その頃には自分たちは会社にはいないと思いますが、自分たちの代が行ったことがこれからの会社を作ると考えると、今頑張ることが必要だと思います」。女性も定年した人も退職した人も若い人も大切に、適材適所で活躍の場を提供することが肝心だと言う清水社長の言葉は、人への思いやりが溢れていた。



採光を十分に取り入れ、木の美しさを最大に生かした玄関ホール。



敷地をよく観察し、土地の持つ条件を検討して建てられる快適な住宅。

Company Profile

【会社概要】

アキツ工業株式会社
代表取締役 清水 浩明
所在地
〒553-0001
大阪市福島区海老江1丁目9番23号
TEL. (06) 6454-0221 (代表)
FAX. (06) 6454-1248
MAIL info@akitsu-kogyo.co.jp
URL <http://www.akitsu-kogyo.co.jp>

【会社沿革】

1974年 大阪市福島区福島で創業
(資本金 1,000万円)
1975年 建設業許可登録(大阪府知事許可)
1976年 トーヨー産業(株)を吸収合併
(資本金 1,500万円)
1976年 一級建築士事務所登録
1976年 宅地建物取引業登録(大阪府知事許可)
1980年 本社を大阪市福島区鷺洲2丁目へ移転
増資(資本金 2,000万円)
1984年 増資(資本金 3,000万円)
1990年 本社社屋を現在の大阪市福島区海老江1丁目9番23号へ移転
2001年 増資(資本金 5,000万円)
2014年 創業40周年
2015年 増資(資本金 8,000万円)

【事業内容】

一戸建木造住宅の設計施工
木造ツーバイフォー住宅の設計施工
集合住宅の増改築等大型メンテナンス工事の設計施工
一般建築工事、土木工事の設計施工
宅地建物取引業
労働者派遣事業



社員数約50名のプロフェッショナル集団。

ピカイチ社員



住宅部 主任 中村 真二氏

Q.業務の内容と、 入社からの経緯は？

住宅部で戸建住宅の予算・安全・工程・品質管理や資材発注が基本的な仕事です。主に分譲住宅で、年間30～40戸を担当しています。

入社の経緯は、卒業後にゼネコンの下請け会社で働いていましたが、倒産してしまいアキツ工業へ。11年働き、40歳手前で新しい経験をしたかったので退社し転職。転職先での仕事に悩んでいる時期にアキツ工業のOBの集まりがあり、社長から戻ってくればと言われ、退社から1年半後に再入社して5年経ちます。合計16年在社です。

Q.仕事で心がけていることは？

仕事は現場のまとめ役なので、コミュニケーションを大事にし、いつも先のことを考えて現場の皆が気持ち良く仕事ができるように心がけています。自分の考えがいつも正解とは限らないので、経験豊富な人の話を聞き、最も良い方法を選ん

でいます。

具体的業務では、図面を見て実際作っていくと悩むこともあるので、いままでの経験と自分の考えで一番良い方法を探ることを大切にしています。

Q.うれしかったことや 成功事例は？

分譲住宅は着工から完成まで4、5か月かかります。10～15戸が終わった時は達成感があります。完成するとお客様との内覧会がありますが、その時に喜んでいただくとうれしいですね。

2年前に、自分の家を自分で建てさせてもらいました。その経験から、実際生活してみてもわかるアドバイスをお客様にもできるようにになりました。

Q.将来の夢は？

難しいと思いますが、一級建築士の資格を取ることです。一級施工管理士の資格は取得しているので、建築から施工管理まで自分でできるようになりたいと



考えています。資格を取得するには学校に通うことになると思いますが、会社からの補助として助成金貸付制度や取得するとお祝い金や給料アップもあるので、とても助かります。

プライベートでは、最近働き方改革で連休が取れるようになり、妻と国内旅行を楽しんでいます。夢は、そのうちヨーロッパなどにも行きたいですね。

アキツ工業株式会社のこだわりPOINT

**住宅総合産業を目指し
戸建木造住宅の建設と集合住宅の修繕・改修の
2本柱で快適な住環境をつくる**

社長のひとこと

10年、20年先の会社存続のために、
人と人の繋がり未来をつくる





木造ハウジングコーディネーター

木住協NOW
連載

奮闘記



「トータルに学べて実務に役立つのが わかったので資格取得を決めた」 と語る ナイス株式会社の鈴木雅人さん

今回の「木造ハウジングコーディネーター奮闘記」は、ナイス株式会社（本社＝神奈川県横浜市鶴見区鶴見中央4-33-1、杉田理之社長、1種A会員）の鈴木雅人さん（56歳）に登場していただいた。ベテラン社員になってから、この木造ハウジングコーディネーター資格試験を受けることになったきっかけは、「木造住宅についてトータルに学べて実務に役立つことがわかったので、この資格を取得することに決めた」と語っている。

不動産営業から入社10年で 資材事業部門総務へ転出

鈴木雅人さんは、平成元年にナイス株式会社に新卒入社し、現在は資材事業本部横浜営業所 課長として勤務している。

大学では法学部で学び、就職活動では住宅にかかわる仕事に就きたいという希望から不動産関連会社数社を受けた。そして、木造戸建住宅の分譲販売の仕事に興味があったので、ナイス株式会社に就職することになったとのこと。

入社してからは、住宅事業本部千葉営業所で営業マンとしてスタートし、その後、浜松営業所に移った。こうして若手社員として不動産営業をしてきたが、32歳の時に、資材事業本部の横浜営業所で総務経理の仕事に就くこととなった。

「ナイスの社員は、大きく不動産系と資材系に分かれます。最初の10年は不動産系の仕事でしたが、ここから資材系の仕事に携わることとなりました」と、鈴木さんは語る。

その後は、福岡、宇都宮、埼玉、そして再び横浜、相模原、宇都宮を経て、この2月より現在の職場である三度

目の横浜勤務となった。

現在の一日の仕事の流れとしては、自宅から電車通勤で40分ほど。主な仕事は、材木店、建材店など顧客管理や与信管理といった総務経理が中心だが、エリア総務として工務店への外回りも行っている。

埼玉でエリア総務の責任者となり 資格取得を決意

木造ハウジングコーディネーター資格を取得しようと考えようになったきっかけは、埼玉に赴任した頃に、エリア総務という部署ができたためだという。

「資材部門の直接の取引先は材木店や建材店ですが、その先の購入促進を図るためには、工務店に出向いてお話を伺い、実情に即した情報提供や助言を行うことが重要でした。私は、従来の総務経理の仕事に加えて、エリア総務の最初の責任者となりました」と、鈴木さんは話す。工務店への提案や助言を行う機会が増えてきたことが、木造住宅への学び直しの転機となったそうである。

鈴木さんは、これまで不動産営業時代に、宅地建物取引士、資材事業本部の仕事に就いてから、ローンアドバイザー、ファイナンシャルプランナー、省エネ技術者、

損害保険業務者など、いろいろな資格を取得してきた。「ベテラン社員になってこの時期に木造ハウジングコーディネーター資格を取得しようと思ったのは、やはり木造住宅について営業編・技術編ともにトータルに学べて実務に役立つことがわかったからでした」と、当時を振り返る。

平成20年度(2008年度)のことなので、総務経理の責任ある立場にあり、試験勉強のための時間をつくるのに苦労したという。

「二日間の講習会に出席しましたが結構難しい感じがして、中途半端な学習では合格できないように思いました。そこで、試験日1週間前くらいから本腰を入れてテキストを必死で読みこみました。まだ過去問題集などあまりなく、出題傾向もわからず、正直どうしようと思った記憶があります」とのこと。

無事合格して良かったのは、やはり工務店へのアドバイスに役立ったことだと言う。

「ちょうど埼玉営業所でエリア総務を始めた頃に、国土交通省の『地域型住宅ブランド化事業』という補助金制度ができました。地域の木材を使い、地域の気候・風土にあった木造住宅のルールづくりに、地域の工務店とグループで取り組むことになったのです。この資格試験で学んだことがこのプロジェクトですぐに活かされることになって、うれしく思いました」と、鈴木さんは、当時を振り返ってくださった。

資格取得から10数年更新講習は 欠かさずに修了

鈴木さんは、木造ハウジングコーディネーターの資格取得からはすでに10数年が経っている。初回の3年後更新講習会、そして5年ごとに行われる更新講習会も欠かさずに有効期間内に修了し、最新の情報を盛り込んだ改訂テキストもきちんと目を通してそう。

「現在の資材部門の部署では、業務に直接結び付くわけではないので、この資格試験を周囲に勧めることもあまりしてきませんでしたが、今回の取材を機に、社内にも、工務店など取引先の皆さんにも資格取得をお薦めしていこうと思っています」と、有難い言葉をいただいた。

鈴木さんのプライベートについても伺った。結婚は最初の宇都宮勤務の頃、現在は、奥様と中学二年生となる息子さんと自宅で三人暮らしをしている。

「息子は部活でソフトテニス部に所属していますが、妻の影響で小学生の頃からエレクトーン演奏を習っています。幼い頃は女子も男子も半々でしたが、今は男子

でお稽古を続けている者が少なくなっているそうです。先日も、横浜サルビアホールで発表会があり、演奏を披露しました」とのこと。鈴木さんは学生の頃サッカーをやっていたが、息子さんの方はどちらかというとエレクトーンのお稽古の方に力を入れている様子である。

休日の過ごし方についても鈴木さんに伺った。つい二カ月前まで宇都宮で二年半単身赴任をしていたため、家族と過ごせるのは週末の土日二日だけ。せいぜい家族といっしょに買い物に出かけるくらいの時間しかなかったとのこと。

「その延長で今もまだ慌ただしい毎日で、家族とゆっくり時間を過ごすことができないでいます。これから余裕ができたなら、何か自分の趣味の時間も持ちたいと思っています」と、鈴木さんは話している。

最後に、将来の夢について伺った。

仕事面では「これまでのキャリアを活かして、もっと取引先に役立つ仕事がしたいと思っています。工務店から如何に信頼されるか、単なる物売りではなく、喜ばれるような提案をしたい」とのことであつた。

プライベート面では「夢といえるかどうかわかりませんが、体を大切にして、永く仕事が続けられるように、これからも健康であり続けたいと思います。」とのことであつた。

ベテラン社員としての鈴木さんのこれからの活躍に期待したい。



木造ハウジングコーディネーター試験 成績優秀者表彰

上位得点者6名の表彰式および記者報告会をオンラインにて開催

木住協は、2022年度木造ハウジングコーディネーター資格試験で、特に優秀な成績で合格した6名を称える成績優秀者表彰式をオンラインにて開催した。22回目となる今回の資格試験にあたっては、前回に引き続き新型コロナウイルスによる状況を鑑みて、WEB講習会の実施や、全国37都道府県135ヶ所に設置されたテストセンターにおけるPCデジタル試験が導入された。表彰式には、そうした環境の中でも試験に挑み高得点を獲得した、(株)細田工務店の内海英輔さん、(株)オープンハウス・アーキテクトの高橋龍晋さん、高橋龍太郎さん、島田晃宏さん(今回は欠席)、藤原弘大郎さん、(株)日本ハウスホールディングスの坂井睦樹さんの6名が上位得点者として表彰された。

理想の住まいをコーディネートできる、住宅建設に関わる営業職・設計職を育成し、木造住宅業界の発展に寄与することを目的として平成13年にスタートした資格制度。

表彰式では、初めに越海専務理事が挨拶に立ち、「409名の皆さん、合格おめでとうございます。」

この3年間、コロナで実施が難しい中、講習や試験にもDXを取り入れるなどの工夫を図り、今回ようやく受験者数も大幅に増やすことができました。本資格に合格した皆様は、住宅業界共通の知識基盤を学んだ自信を持って、それぞれの職場で活躍していただきたいと期待しております」と祝辞を述べた。

受験者数は昨年より大幅に増加 デジタル試験も受験者に好評

続いて、青木研修部長より試験の概要が報告された。今年度の合格点は400点満点中280点以上(かつ営業編140点以上、技術編134点以上)となった。受験者数は528名と昨年より8.8%増と大幅に増加。うち409名が合格し、合格率は77.4%と1.1%低下した。青木研修部長は「大半が会員企業からの受験資格ですが、18歳以上という年齢制限

のみでオープンな制度になっており、引き続きPRを増やして認知度を高め、受験者数を増やしていくことが課題です」とコメントした。

ちなみに試験会場において行ったアンケートでは、試験方法について「紙よりもPC試験の方がよい」と回答した受験者は72.8%にも及び、「どちらでもよい」と回答した人も含めると93.8%の受験者が好意的な回答を示した。

入社3年未満の若手の方が多く受験する本試験だが、経験6年以上の受験者の割合も昨年12.7%から16.7%へと増加している。青木研修部長は「本テキストは、基礎の知識から最新の情報まで網羅しており、中堅以上やベテランの方にとっても、手ごたえを感じていただける内容となっております」と述べた。

上杉審査委員長による審査講評

審査委員長の東洋大学名誉教授・上杉啓先生からは、「木造ハウジングコーディネーター資格試験は、資格を取るための試験というよりは、ハウジングコーディネーターの仕事を進めていく上で、将来にわたって役に立つ内容を身に付けていただくことを目的としています。今回、成績優秀者となられた皆さんは、



開会の挨拶をする
越海専務理事



概要報告をする
青木研修部長



オンライン上で外部記者を招いての質疑応答の様子

ほぼ満点に近い高得点を得られた方々です。しかし、これに慢心することなく、木造住宅全体にかかわる基本知識を実際に業務に活かした上で、さらにその経験をフィードバックしていただきたい」との審査講評をいただいた。

喜びと感謝に満ちた成績優秀者の声

青木研修部長より成績優秀者が高得点順に発表された。オンラインのため、事前に各参加者の手元に届けられていた表彰状と認定証を掲げながら表彰を受けた後、リモートで参加した成績優秀者が合格の喜びや今後の意気込みを語った。

●(株)細田工務店 内海英輔さん

「私自身は、普段木造戸建住宅の設計をやっております。日頃からお客様と接触する機会が少ないため、今回は、営業の知識を深めたいという思いから、資格試験を受けさせていただきました。今回、この得点を取れたことは大変励みになりました」

●(株)オープンハウス・アーキテクト(内定者) 高橋龍晋さん

「試験勉強を始めた当初はわからないことも多く苦労しましたが、同期との切磋琢磨や先輩社員の方々の力添えをいただき、日々勉強いたしました。表彰いただいたことで学習を終わらせるのではなく、今後も反復を続けて学んでいきたいと思っております」

●(株)オープンハウス・アーキテクト(内定者) 高橋龍太郎さん

「この表彰にまさか自分が選ばれるとは思っておりませんでした。上司によるご指導や同期の励ましがなかったら、この表彰に到達することはできなかったと考えております。今後も、この表彰をより価値のあるものにするために、日々精進していきたいと思っております」

●(株)日本ハウスホールディングス 坂井睦樹さん

「この度成績優秀者として表彰していただき、とても光栄に思っております。合格できたことで満足するのではなく、実務に活かしていけるように、日々精進していきたいと思っております。貴重な学びの機会をいただき、本当にありがとうございました」

●(株)オープンハウス・アーキテクト(内定者) 藤原弘太郎さん

「今回試験を受けるにあたって、自分は満点を取る目標をめざしました。実際には満点を取ることはできませんでしたが、自ら目標を立てて、自分から発信していくことの重要性を知ることができました。この経験をこれからの仕事にも活かしていきたいと思っております」



審査講評をされる
上杉審査委員長



リモート参加された成績優秀者の皆さん。左から(株)細田工務店の内海英輔さん(396点)、(株)オープンハウス・アーキテクトの高橋龍晋さん(396点)、高橋龍太郎さん(395点)、(株)日本ハウスホールディングスの坂井睦樹さん(394点)、(株)オープンハウス・アーキテクトの藤原弘太郎さん(394点)

テキストへの希望についての質疑応答

質疑応答では、上杉審査委員長から「今後のフィードバックという意味で、テキストへのご希望があれば伺いたい」との質問が投げかけられた。内海英輔さんは「仕事の合間にも学習できるように電子媒体でのテキストがあったら、勉強もしやすくなるのかなと感じました」と回答した。高橋龍太郎さんは「テキストの中の難しい単語についてはもう少し説明があれば良かったかなと思います」と回答した。また、藤原弘太郎さんは「私は想定問題集にくり返し解答する勉強法をしたのですが、テキストに対応したランダム出題みたいなものがあれば、より深められたのではないかと感じました」と回答した。

自信を持って取り組める 家づくりのコーディネーターとして

最後に村岡業務・広報委員長から「今回の成績優秀者6名のうち4名は入社内定者であつたと伺っております。初めて学ぶ建築用語に戸惑うことも多かったと思います。また、中堅で成績優秀者になられた方は、仕事の責任も重くなっていく中で、試験のための勉強時間をひねり出すのに苦労されたと思います。改めて、今回成績優秀者になられた方々の努力にエールを送りたいと思います。今回合格された皆さんには、最初は3年後、その後は5年毎に更新講習会の機会を設けております。これからも、テキストや試験内容のアップデートはもとより、家づくりのコーディネーターとして自信をもって取り組んでいくための一つのパッケージとして、より良いものをめざしていきたいと思っております」と、閉会の挨拶が述べられた。



閉会の挨拶をする
村岡業務・広報委員長

日本の世界遺産 探訪

THE SACRED ISLAND OF OKINOSHIMA AND ASSOCIATED SITES IN THE MUNAKATA REGION

「神宿る島－宗像・沖ノ島と関連遺産群－」は、2017年に日本で21件目の世界遺産に登録されている。古代豪族の宗像氏に祀られた沖ノ島を中心とした祭祀遺跡群は、航海安全に関わる宗像三女神信仰として現代に受け継がれてきた。

今回の世界遺産探訪は、古代から揺るぐことなく崇拝されてきた絶海の孤島「宗像・沖ノ島」についてご紹介しよう。



福岡県 宗像・沖ノ島

古代から厳しい掟に護られた神宿る絶海の孤島

沖ノ島は、九州本土から約60キロ離れた玄界灘にある絶海の孤島で、古代から中国大陆及び朝鮮半島との海上交通の道標であるとともに、海への畏れを鎮める聖地として崇拜されてきた。

古代豪族の宗像氏が祭祀を司ってきた宗像大社は、沖ノ島の沖津宮、大島の中津宮、九州本土の辺津宮の三位一体の神社で、航海の安全を祈願する宗像三女神信仰として継承されている。

とりわけ、島全体が信仰の対象である沖ノ島では、「神宿る島」として厳



しく入島を制限する禁忌などの慣習が行われてきた。島の周囲は約4キロ、常緑樹の深い原始林に覆われ、至るところに巨岩が露出して、港以外に船を着けることは難しい。宗像大社の神職が10日交代でただ一人島にわたり、沖津宮の祭祀と管理を行う習わしになっている。一般人は特別に許可を得たもののみが禊を行って着衣を整えたうえで初めて上陸できるが、「お不言様」(おいわずさま)という厳しい掟があり、島で見聞きたことは一切口外してはならず、一木一草たりとも持ち出してはならないとされてきた。このことにより、自然崇拜に基づく古代からの祭祀遺跡がほぼ手つかずのまま現代まで保存された。

8万点もの古代遺物が眠っていた「海の正倉院」

沖ノ島で本格的な調査分析が行われたのは戦後になってからで、昭和20年代から40年代にわたる12回に及ぶ発掘調査で8万点にのぼる大量の遺物が出土した。

4世紀後半に巨岩の上で始められた「岩上祭祀」の遺跡では、日本最古の三角縁神獣鏡をはじめとした70面もの

銅鏡、鉄剣などの武具、硬玉・碧玉製の勾玉といった奉獻品が見つかった。鏡・剣・玉は日本神話の「三種の神器」といわれ、古代古墳に副葬されたものと共通しているが、ひとつの遺跡からこれほど大量の神器が発見された例はない。

5世紀後半になると、祭祀の場は巨岩の陰へと移るが、この「岩陰祭祀」の奉獻品からは、純金製指輪をはじめ、金銅製龍頭や馬具など、中国大陆や朝鮮半島からもたらされた宝物が目立ってくる。さらに、ペルシャからシルクロードを経てもたらされたカットガラス碗片も

あり、古代からの海外交流の重要な証とされている。

8世紀からは、巨岩群からやや離れた平坦地に祭壇を設ける「露天祭祀」となるが、土師器、須恵器などの祭器用土器、人形・馬形・舟形などの形代(かたしろ)が出土している。さらに、日本最古の歴史書である『古事記』『日本書紀』には、沖ノ島の深く森の奥に鎮座する沖津宮を宗像氏が祀っていると記されている。「海の正倉院」といわれるこの神宿る島で発掘された大量の遺物は一括して国宝に指定されている。

世界遺産「神宿る島—宗像・沖ノ島と関連遺産群—」登録概要

構成資産：沖ノ島(宗像大社沖津宮)、小屋島、御門柱、天狗岩、大島(宗像大社沖津宮遥拝所、宗像大社中津宮)、宗像大社辺津宮、新原・奴山古墳群

所在地：福岡県宗像市・福津市

記載年：平成29年(2017年)

区分：文化

登録基準：1. 建築や科学技術などの発展に重要な影響を与えたある期間にわたる価値観の交流またはある文化圏内での価値観の交流を示すもの。

2. ある文化的伝統または文明の存在を伝承する無二もしくは希有の物証。

2023年度版「税制ガイドブック～住宅と税金」の発行に伴い 「住宅税制改正セミナー」を 4年ぶりに対面開催

木住協では、2023年度版「税制ガイドブック～住宅と税金」の発行に伴い、購入者へのサポート事業として「住宅税制改正セミナー」を4月11日(火)にコロナ禍において中止していた対面形式でのセミナーを木住協会議室にて、4年ぶりに開催した。講師は、同誌の著者である税理士法人 下平・櫻井事務所の下平達夫先生(木住協 顧問税理士)。住宅に関する税制改正を、前半後半に分けてわかりやすく解説した。



熱心に聞き入る参加者

「2023年度 住宅に関する税制改正の概要」

4年ぶりに対面形式とした今回の「住宅税制改正セミナー」は定員30名、約2時間行われた。木住協 顧問税理士の下平先生が講師となり、2023年度住宅に関連する税制の改正点と、住宅営業としてお客様に説明するポイント等、理解しておかなければならないことの解説があった。



ガイドブック

もくじ	
2023(令和5)年度 住宅に関連する税制改正の概要	P12
※住宅の取得に連関する3つの変更点	P14
※住宅に関連する税金の改正点	P15
※土地の購入からマイホームの建築・入居まで	P17
住宅の取得と税金	
取得税	P11
贈与税	P12
相続税	P13
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P14
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P15
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P16
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P17
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P18
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P19
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P20
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P21
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P22
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P23
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P24
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P25
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P26
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P27
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P28
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P29
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P30
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P31
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P32
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P33
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P34
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P35
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P36
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P37
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P38
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P39
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P40
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P41
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P42
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P43
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P44
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P45
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P46
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P47
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P48
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P49
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P50
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P51
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P52
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P53
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P54
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P55
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P56
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P57
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P58
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P59
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P60
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P61
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P62
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P63
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P64
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P65
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P66
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P67
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P68
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P69
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P70
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P71
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P72
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P73
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P74
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P75
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P76
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P77
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P78
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P79
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P80
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P81
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P82
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P83
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P84
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P85
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P86
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P87
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P88
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P89
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P90
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P91
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P92
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P93
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P94
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P95
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P96
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P97
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P98
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P99
贈与税・相続税の計算(贈与税・相続税の計算)	P100

2023年度の住宅税制は、昨年度の減税措置の期間延長が主となり、その他控除の拡充や一部改正等もあった。参加者はスライドと「2023年度版 住宅と税金」のガイドブックを見ながら、下平先生の解説を熱心に聞いていた。また、住宅税制は個々に異なり複雑なため、対応する減税措置の変更や控除額が違う場合もある。3年間のwebセミナーから、久しぶりの対面形式のセミナーだったからなのか、会場においては新鮮な空気が漂っていた。参加者は解説を一言一句聞き逃さないで、ガイドブックにメモを書き込みながら講習を受ける姿が多く見受けられた。

「住宅の取得・相続・贈与と税金」

休憩を挟んで後半は、「住宅ローン控除(住宅借入金等有する場合の所得税の特例)」と「住宅所得等資金の贈与税の非課税制度」、「土地の購入からマイホームの建築・入居まで」の解説があった。各年のローン控除額の解説では、収入別ローン控除早見表や、源泉徴収票の見方を含めたものであった。参加者は、ガイドブックの計算シミュレーションに数字を書き込みながら理解を深めた。

最後に、司会進行の木住協 青木・研修部長が、「今回のセミナーの内容は、webでも公開するので、より知りたいところを選択して確認できます」と、会を締め括った。

木住協 顧問税理士・下平達夫先生



令和4年度 北海道支部総会開催

北海道支部総会が、3年ぶりにリアル開催で、3月6日(月)ANAクラウンプラザホテル札幌にて開催された。対面での開催は3年ぶりとなった。出席者は会員22社46名、札幌市より環境局 環境都市推進部 環境エネルギー課亀田谷氏、本部よりは越海専務理事はじめ4名であった。

冒頭、中田和仁支部長(株式会社土屋ホーム 常務取締役)のあいさつで、「国の方で進めている『カーボンニュートラル』に向けていろいろな政府の方からも施策が実施されております。例えば環境断熱関係だと昨年断熱等級7が新設されたり、ZEHの推進、こどもエコすまい支援事業等が



冒頭であいさつをする中田支部長

打ち出されています。これまでの補助金も含めて、ZEHというのが一つのキーポイントになるというふうに思っています。

それから構造的な点では、4号特例の見直しというところも本格的に始まってきます。また2025年には省エネ法が義務化されるということで、我々業界も今までとは違う動きが進んでいるということで、これを機会に新しい取り組みにもきちんと対応できるように、北海道支部としても情報の提供、また皆さんと一緒に相談をさせていただき、有意義な支部活動が出来るように、この後我々理事も含めて進めていきたいと考えております。今後とも変わらぬご協力を宜しくお願いいたします。」と方針を示した。

本部の越海専務理事よりは、「コロナ禍でこの3年間、支部関係の予算執行が滞っているところが見られます。来年度は支部活動も含めて正常化していくと考えており、支部におかれましても支部長からお話がありました『4号特例』『省エネ義務化』等、この3年の間にいろんなことが進んでいますので、そのような全国共通の課題はもちろん、各支部それぞれに独自の課題があります。先般林野庁の会議に出てみますと、北海道は道産材の活用が課題としてあがっていました。

その課題に向けた活動の活性化のために、本部としては一緒に対応していきたいと考えます。また、皆様方も支部としてのいろいろな提案を出していただければと、本部としても積極的に対応していく考えです。」と要望した。

議案審議

【第1号議案】 令和4年度事業報告並びに収支報告に関する件

- 幹事会の開催
- 10月のほっかいどう住宅フェアの報告
- 北海道庁との応急仮設協定締結に向けた打合せの報告

【第2号議案】 令和5年度事業計画並びに収支予算に関する件

- 支部総会、幹事会の開催
- 講習会、セミナー、視察会の開催
- 北海道庁との応急仮設協定締結に向けた取組み

【第3号議案】 支部役員の選任に関する件

以上の審議を行い、結果すべて承認となった。

総会終了後、続けて開かれた講演会では、ボクシング元世界王者の八重樫 東氏による「弱者による勝利のマネジメント術」と題しての講演があった。現役時代の経験を振り返り、戦いに挑む前の「覚悟」の持ち方や準備の大切さなど、ビジネスにも通じる心構えを伝えた。



チャンピオンベルトを手に講演を行うボクシング元世界王者の八重樫 東氏

東北支部 視察レポート

VISON(ヴィソン、三重県多気郡多気町)～伊勢神宮を巡る

2023年2月16日(木)、17日(金)

長らく続いた新型コロナウイルス感染拡大防止対策も5月8日から5類感染症に移行することに伴い、3月13日からはマスク着用が個人の判断に委ねられるなど飲食やイベント及び海外への渡航等、行動制限緩和の指針が出さ

れたことにより、今まで自粛をしていた支部活動再開の第一歩として見学研修会を開催しました。

宮城県仙台市では出発の前日、前々日と雪が降っていましたが、見学研修会開催日は両日ともに好天に恵まれ、参加者一行は三重県多気郡多気町のVISONから伊勢市の伊勢神宮(内宮)を巡りました。

『HOTEL VISON』 2021年開業

所在地:三重県多気郡多気町ヴィソン672番1

VISONは、三重県中央部の多気町にあり、東京ドーム24個分の広さがある施設内には温浴施設、産直市場、レストラン、スイツエリア、オーガニック農園、木育施設など約70店舗の多様性と専門性を楽しめるさまざまな店舗が出店しています。豊かな山海の幸に恵まれた三重県の癒・食・知を体感できる日本最大級の商業複合施設です。

このヴィソンの中核施設であるヴィソンホテルズ(ホテルヴィソン、旅籠(はたご)ヴィソン)は、住友林業株式会社、H.I.S. ホテルホールディングス株式会社、株式会社アクア

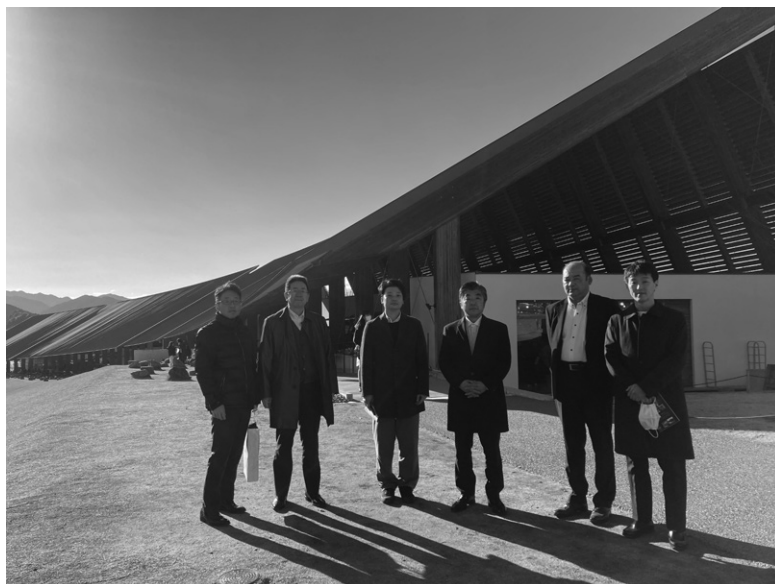
イグニスの3社が出資するヴィソンホテルマネジメント株式会社が運営しています。(住友林業株式会社ニュースリリースより一部引用)

今回は名古屋中部国際空港(セントレア)からレンタカーで移動しましたが、道中の殆どが高速道路を走行したためVISONに到着するまでに所要時間は2時間を切り、風景が海から山へ変化していくことも楽しみながら渋滞もなく快適に現地へ到着しました。民間施設として初めてスマートインター直結を認可された施設でありアクセスは良好でした。

『Marche VISON マルシェ ヴィソン』

基本設計:住友林業株式会社

三角屋根の中には地元の食材を集めた店舗が連なり、平日にもかかわらず大勢の人たちがお店でショッピングや食べ歩きを楽しむ姿が印象的でした。



『旅籠ヴィゾン』

2階建て建物4棟で構成、各棟に一部屋コンセプトルームがあり、1階は飲食店やショップが連なり、今回の宿泊棟として利用しました。写真は美食で世界中から観光客を集めるスペイン：サンセバスチャン市と友好の証を締結したことを記念して名付けられた「San Sebastian St(サンセバスチャン通り)」を挟んだ実際に泊まった部屋からの風景です。奥の斜面にはホテル棟が建っています。旅籠棟の外観から見える「木」の部分は地元県産木材をつかっているとのこと。もう一枚の写真は夕日を浴びた VISON ホテル棟のエントランスで三重県の恵まれた大自然が伝わります。

他にも施設内には大浴場「本草湯」があり、施設内や近隣で採れた薬草を使った薬草湯も楽しめます。全ての施設を体験するには丸一日あっても時間が足りないくらいの広大な敷地と豊かな大自然に加えて恵まれた食材もふんだんにあり、日常を忘れて飽きることがなくリラックスして過ごすことができるでしょう。近いうちに個人的にも家族を連れて再訪することにしました。



旅籠ヴィゾン



VISION ホテル棟エントランス



集合写真 SWEETS VILLAGE 前より背景は VISON ホテル棟

令和4年度 神奈川支部定時支部総会開催

はじめに進行役の好田支部事務局長から、「神奈川支部会員52社に対し、出席11社、委任状提出20社となり、定足数となる過半数に達しましたので総会が成立いたしました」との報告があり、議長に川路支部長を選出し議事に入った。各議案の説明が行われ、全議案が満場一致で承認された。その後、本部役員の紹介と越海専務理事挨拶で閉会した。

総会後には講演会が行われ、引き続いて協会本部をはじめ、関連業界のご来賓ら多数にご臨席いただき懇親会が開催された。会員同士の活発な情報交換が図られ、盛会のうちに幕を閉じた。

政府の制度への取り組みがカギ

冒頭挨拶にて、川路泰三支部長(ナイス株式会社取締役資材事業本部長)が以下のように述べた。

「コロナは落ち着いてきましたが、経済の混乱はまだまだ続くといわれています。ただ、日本の30年にわたるデフレマインドをインフレマインドに切り替えていくという意識変化が今後大切で、今年はインフレの行方が最大の焦点になると思います。インフレは国内の住宅マーケットの縮小を加速させるかもしれませんが、世界的なサプライチェーンの分断の影響等、もうなにか起こるかわからない状態です。我々会員はそれを乗り切るために、供給体制すなわちリカバリー体制をしっかりと整え、お客様にご迷惑がかからないように木材資材の提供という役割をしっかりと果たしたいと思います。

また、住宅関連業界においては2050年のカーボンニュートラルを目指して、様々な施策、補助事業の活用が今年の住宅マーケットでは必要不可欠だと思います。政府も変化の波を捉え、政府参入事業に2,800億円の補助予算を組んでいます。こども支援事業や住宅省エネ2023年キャンペーン等も、補助制度を追い風としています。これらの制度を

我々がどう取り込んでいくか。脱炭素を目指す、木造住宅のさらなる普及のカギになるのではないかと思います。これらの制度の活用、皆さんには多く取り組んで欲しいと思います。併せて、様々な法改正が閣議決定されています。今年は業界に変化があり、大きく成長するチャンスの年だと思います。

応急仮設住宅においては本年も引き続き、一歩二歩先を行く取り組みを行っていきます。

最後になりますが、会員の皆様に実り多い一年となりますことを心よりお祈り申し上げます。」



議案審議

川路支部長を議長に選出し、議事署名人として齋藤副支部長、佐々木副支部長が選任され議事に入った。各議案の説明が行われ、いずれも満場一致で承認された。

【第1号議案】 令和4年度事業報告概要(案)承認に関する件

【第2号議案】 令和4年度収支報告概要(案)承認に関する件

【第3号議案】 令和5年度事業計画概要(案)承認に関する件

【第4号議案】 令和5年度収支計画概要(案)承認に関する件



10支部体制での連携と取り組みを期待

本部より越海興一専務理事が以下のように述べた。

「3年振りの総会でしたが、コロナ禍ではウッドショックやウクライナ戦争等、世界情勢に振り回された3年間でした。国内では人口が減り、いよいよ世帯数も減っていくといわれ、住宅だけでは市場規模は保たれないといわれています。その分、木造の場合は国内事業の促進という追い風もあります。中大規模木材建築物の推進が重要で、ここ数年は木造建築物の技術開発を進めています。木住協ではセミナー等を通じてこれらの情報を発信していきます。皆様方にもぜひご利用頂きたいと思います。

また、応急仮設住宅に関しては、神奈川支部は熱心に取り組んでいらっしゃいます。南海トラフの被害を考えれば、できるだけ急いで進めたいと思っています。神奈川支部も近隣の静岡県支部や中部支部と連携すれば、より効果的ではないかと思っています。

昨年、木住協に新しく中国支部が設置されました。木材

圏が沢山ある地域ですので、神奈川支部との支部同士の連携も期待をしています。

これで合計10支部体制になり、当面この体制で木住協の運営を行っていきます。各支部との連携

や取り組み等を企画して頂ければ、前向きに予算対応させて頂きたいと思っています。神奈川支部は少し先を進んでいる支部ですから期待をし、来年度もご健勝で支部活動を邁進されることをお祈りします。」



講演会

慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科

前野隆司教授が「ウェルビーイングの過去と未来」をテーマに講演

ウェルビーイングとは、健康で幸せで福祉も整った社会、個人も社会も良い状態であること。講演は、前野教授がスライドを見せながらウェルビーイングの概念や歴史を説明した。また、社会・企業・個人や経営者・社員にとってのウェルビーイングについて解説。

さらに、住宅メーカーとのコラボ例等、今後の可能性を語った。



「長野県 松本城」 歴史的建造物視察レポート

(一社)日本木造住宅産業協会 中部支部の支部活動で歴史的建造物の視察ツアーを2022年11月17日(木)に日帰りにて実施致しましたので報告致します。

「国宝 松本城」

現存する天守12城の内、日本最古の五重六階の国宝の城。天守が国宝指定された五城の内の1つ(その他は、姫路城・犬山城・彦根城・松江城)。

戦国時代に作られた深志城が始まりで後に武田信玄に占領されましたが、本能寺の変に乗じて元の領主で信濃守護だった小笠原氏が奪還し名を松本城に改めました。

ちなみに鎌倉殿の13人時代の信濃守護は、比企能員で比企の乱後は北条義時の息子の北条重時が信濃守護となり、室町時代の守護が小笠原氏になります。

その後の豊臣政権時代では、小笠原氏が下総へ移封され、石川数正が松本城に入りました。

この石川数正は、元は徳川家康の家老で重臣でしたが、家康を裏切り豊臣秀吉配下へと出奔した人物で徳川家康に大きな衝撃を与えたのですが、次回の大河「どうする? 家康」でも大きく取り上げられるかと思えます。

後の関ヶ原の合戦では子の石川康長は徳川方東軍に付きましたが、家康の恨みは深く合戦後の論功行賞では加増どころか改易の憂き目に合います。



その後、松本城は、返り咲きの小笠原氏→戸田氏→松平氏→堀田氏→水野氏→戸田氏と城主が変わりながら幕末、現代へと引き継がれました。

下見板が黒漆で塗装され俗に烏城とも呼ばれた松本城ですが、戦国時代の堅固な城から江戸時代で平和になってからは優雅な辰巳附櫓、月見櫓が増築されています。

現存木造天守ですので戦後復興されたRC造天守とは違い、階段も急こう配で上り下りは不便です。



平日なのに見学者の往来で城内は渋滞してました。(一方通行にしないと危険)BF対応急務、矢狭間、鉄砲狭間もたくさんあいてますので、寒冷地では冬はとても寒いが

換気は万全(笑)。

城内には当時の鉄砲の展示が充実しており、これにも興味をそそられました。



十手型の小型銃



「国宝 旧開智学校 校舎」

明治9年に完成した旧開智学校は、現在耐震工事中で休館につき、内覧出来ずでしたが外観は見学できました。

地元の大工棟梁 立石清重が設計した学校建築で擬洋風建築の代表とのことでした。

文明開化の時代を象徴する洋風とも和風とも言えない不思議な建築との評価をされています。



ランチは、松本市内 ホテルブエナビスタ内 中華 聖紫花にて美味しくいただきました。



★8:00出発、17:00 帰着・解散の弾丸ツアーでしたが、メンバーにも恵まれ和気あいあいと楽しい時間が過ごせました。温故会のOBの皆様もご参加頂き有難う御座いました。次回も多数のご参加を宜しく御願い致します。

報告者：運営委員 大建工業(株) 村井 洋介

令和4年度 近畿支部定時支部総会開催

近畿支部では、令和5年3月10日(金)、ホテル日航大阪において、定時支部総会を開催しました。

はじめに、吉岡保樹運営委員長より「近畿支部会員72社に対し、出席26社、委任状18社、合計44社をもって総会が成立いたしました」との報告があり、議長に古川浩支部長を選出し議題に入りました。各議案の説明が行われたあと、全議案が満場一致で承認されました。

総会後には柔道オリンピックメダリストの野村忠宏氏の

講演会が行われ、引き続いて協会本部をはじめ、関連業界のご来賓ら多数にご臨席いただき懇親会が開催されました。コロナ禍のため2020年以来、書面議決を行ってきたため4年ぶりに顔を合わせての総会・懇親会で会場は華やかな雰囲気になり、ご来賓の方々から木造住宅産業や当協会への励ましのご挨拶、ご祝辞をいただき、活発な情報交換が図られ、盛会のうちに幕を閉じました。



総 会

総会は吉岡運営委員長によって議事が開始されました。近畿支部会員72社に対して会員会社44社(うち委任状18社)の出席を得て成立が確認されました。開会に当たり、近畿支部古川支部長が挨拶に立ちました。

●古川支部長挨拶

4年ぶりに皆様とお顔を合わせて総会・懇親会ができることを大変うれしく思います。昨年はウクライナ情勢によるエネルギー資源の高騰、欧米ではインフレ傾向や金利の上昇など不安要素が多く、2021年に表面化したウッドショックの影響も未だ懸念される一方で、国土交通省による「子どもエコすまい支援事業」といった省エネを奨励し、子育て世代の住宅取得を支援する前向きな政策も始まりました。また「木のある暮らし作文コンクール」では、近畿ブロックでも多くの応募があり、いつもながら小学生の新鮮な発想に感動しました。自治体との「災害時における応急仮設住宅の建設に関する協定」も進めており、昨年は神戸市と締結。現在京都市とも協議中です。このように我々木造住宅に関わるものとしては、健康で快適な暮らしを守るベースであるとの認識を強くしているところであります。令和5年度はコロナも収束に向かい社会が正常化していくと思われますので、近畿支部としても皆様とさらに連携して活発に活動してまいりたいと思います。なお一層のご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



古川支部長に続いて、本部より越海興一専務理事がご挨拶されました。

●越海専務理事挨拶

近畿支部の皆様には、平素より木住協の活動にご協力いただき、まことにありがとうございます。この3年間はコロナ禍によって思うような活動ができない中でも、近畿支部さんはできる範囲で活発に活動が続けておられました。令和5年度も少子化が進み、景気も世界情勢もまだまだ不安定ではありますが、木住協としては地球環境負荷の観点からも木造建築の技術開発や情報発信を行っていきます。カーボンニュートラルという考え方も追い風となっています。近畿支部には中部、中国、四国支部とコラボして事業展開を行うなど、より一層のご活躍を期待しておりますので、よろしくお願い申し上げます。



議案審議

この後、古川支部長を議長に選出、議事署名人として大西副支部長が選任され議事に入りました。各議案は吉岡運営委員長と五所事務局長によって説明が行われ、いずれも満場一致で承認されました。

【第1号議案】

令和4年度事業活動報告(案)並びに収支報告書(案)に関する件

【第2号議案】

令和5年度支部役員の選任に関する件

(報告事項)令和5年度事業計画(案)並びに予算概要(案)

懇親会

総会、講演会の後、五所事務局長の司会により懇親会が開催されました。改めて古川支部長、越海専務理事が挨拶されたあと、独立行政法人住宅金融支援機構近畿支店の中



今岡宏徳副支部長

島康成支店長様からご祝辞をいただきました。続いて今年度より新しく幹事となった会員会社の紹介、



今岡宏徳副支部長の発声で乾杯へと久しぶりの懇親会は笑顔があふれ、会員相互の親睦と交流の輪が広がりました。そして高田幸男幹事の中締めにより、近畿支部ならびに木造住宅産業のさらなる発展を期してお開きとなりました。

●住宅金融支援機構近畿支店 中島康成支店長様ご祝辞

本日はこのような盛大な懇親会を開催されましたことをお祝い申し上げます。木住協の活動は、SDGsや脱炭素社会への取り組みなど、人と自然の共生を目指す社会にとって大きな財産だと思います。環境にやさしい“木の時代”をリードする存在として、木住協への期待は今まで以上に高まっています。私どもの機構も脱炭素社会の実現に向けて一層の努力を続けてまいりますので、引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。



講演会

折れない心 選択と決断、不断の努力で極めた 柔道の道

令和5年3月10日(金)、近畿支部定時支部総会に続いて、柔道史上初のオリンピック3連覇を成し遂げた野村忠宏氏の講演会が行われ、少年時代から今に至る野村氏の努力と挑戦の柔道人生を語っていただきました。また野村氏は2018年にアスリートの価値を高め、アスリートをサポートするためのマネジメント事務所・株式会社Nextendを設立。代表取締役を務め、スポーツのもつ無限の可能性を社会に伝えようと活躍しておられます。野村氏の幅広い視野に立ったご講演に参加者は感銘深く聴き入りました。



柔道家
株式会社Nextend
代表取締役 **野村 忠宏氏**

【プロフィール】

1974年12月10日生まれ奈良県出身の柔道家。七段。祖父は柔道場「豊徳館野村柔道場」館長、父は天理高校柔道部元監督という柔道一家に育つ。1996年アトランタ、2000年シドニー、2004年のアテネと、柔道史上初、また全競技を通じてアジア人初となるオリンピック3連覇を達成する。2013年に弘前大学大学院で医学博士号を取得。2015年、40歳で現役を引退。現在、株式会社Nextendの代表取締役として「野村道場」を開催する等、国内外にて柔道の普及活動を展開。またテレビでのキャスターやコメンテーター、講演活動など全国的に活躍している。



資材・技術委員会主催 研修見学会 古都・奈良に息づく古代と 現代の木造建築を訪ねて

秋も深まりを見せる令和4年11月22日、資材・技術委員会では奈良県桜井市方面への研修見学会を実施しました。三輪素麺で有名な桜井市。その素麺を中心メニューとしたレストラン&ショップと社屋を一体化したユニークな中大規模非住宅木造店舗「マル勝高田商店」と、奈良の木材事業振興に貢献する「桜井協同組合」、そしてわが国最古の神社と言われる「大神神社」とその門前町として栄えた伝統的町並みを巡り、古代から現代に受け継がれる木造建築と木材の実際に触れる研修見学会となりました(参加者13名)。

株式会社マル勝高田商店「てのべたかだや」 「森をつくる」をコンセプトに新社屋 ユニークな“創作そうめん”が人気のレストランも

大阪の市街地からバスで約90分。桜井市は奈良県の中部に位置し、「畑を掘っても縄文や弥生時代の土器が出てくる」といわれるほど歴史の深い自然豊かな町です。そこに溶け込むような、それでいて独創的な木造建築がマル勝高田商店です。「森をつくる」をコンセプトに令和2年に新社屋を竣工し、2階にオフィス、一階にはユニークな“そうめんのレストラン”とショップをオープンしました。

マル勝高田商店は昭和8年創業の三輪素麺製造販売の

老舗ですが、社屋立て替えに当たって、代表取締役・高田勝一氏は「木を素材にして開放的で居心地の良いオフィスと素麺専門のショップ&レストランをつくりたい」と考え、それに応えたのが住友林業株式会社でした。研修ではここで、設計・施工に携わった建築事業部・杉本貴一グループマネージャーが東京から合流。完成までの経緯を聴きました。



代表取締役 高田勝一氏

施主である高田社長の希望をかなえるため、“木の魅力”を存分に生かしたオール木造で大胆な木組みの架構とラーメン構造によって、広々とした“木の空間”を実現させ、オフィスで働く社員も、レストランを訪れる客も「自然に囲まれているような安らぎを感じる」と好評だと言います。また、若者の客が増えたと高田社長も喜ばれ、素麺のユニークな新メニューが次々と作り出されています。



マル勝高田商店の新社屋の前で



会議室で高田社長の説明を聴く



外廊下はまさに“木の回廊”



1階は素種専門のレストランとショップ



木に包まれるような居心地の良いオフィス。自由なワークスタイルがユニーク

「桜井木材協同組合」木材振興センター“あるぼーる” 奈良県中部地域の木材振興に貢献して70余年 多目的に使われる「あるぼーる」と木造の新会館

次に訪問した桜井木材協同組合は昭和24年に設立され、現在、桜井、天理、橿原の各市と高市郡明日香村をその地域としています。吉野杉をはじめ豊富な山林資源を有する奈良県ですが、昭和50年代頃からの木材不況など苦勞も多かったと、我々を迎えてくださった同組合の専務理事・松田憲昌氏は、歓迎のご挨拶とともに組合の歴史と現状について説明されました。

松田専務理事と前川和彦氏、組合員の谷一木材株式会社の取締役会長・谷奥忠嗣氏の案内で、組合会館と木材振興センター「あるぼーる」を見学しました。「あるぼーる」はスペイン語で“木”を意味し、不況を乗り越え木材事業振興拡大のために昭和59年に木造建築として竣工。その後、現在の新会館のある場所に移転されました。直径60cm前後、長さ12mの杉丸太を



桜井木材協同組合の新会館



新会館内で組合の歴史や建物の構造などについて研修



木材振興センター「あるぼーる」



あるぼーる内部は34本の丸太で支えられた天井の高い広々空間

柱や桁、梁に34本使用して広々とした空間を確保。イベントホールやレンタルスペースとして市民に利用されています。同敷地内には組合設立70周年を記念して伝統的な木造軸

組工法で新築された組合事務所会館もあって、まさに奈良の木材振興の拠点となっています。

「大神神社」と「三輪のまち並み」

三輪山をご神体とする最古の神社 門前町には酒造家や三輪素麺の 問屋が軒を連ねる

大神神社(おおみわじんじや)は大物主大神(おおものぬしのおおかみ)が祀られる三輪山をご神体とする日本最古の神社で、ボランティアガイドさんの案内で広大な神域を巡りました。

山をご神体とする大神神社では、本来は本殿などの建築物は設けられていませんでしたが、三輪山を拝む拝殿として鎌倉時代に創建され江戸時代(1664)に再建された建物が国の重要文化財に指定されています。白木造りで横が約17m、縦が約8mの切妻造り。正面には唐破風の大きな向拝がつき、屋根は檜皮で葺かれています。この拝殿は江戸時代の豪壮な社殿建築を表しているといえます。

大神神社の門前町として栄えたのが「志るしの杉玉の里」と呼ばれる地域です。三輪山は三諸山とも呼ばれ、三諸は酒を意味する言葉でもあるということから、この地は日本酒発祥の地の一つとされています。界隈には酒造家の蔵も多く、吉野杉で作られた杉玉は「大神神社志るしの杉玉」として今でも毎年、神事後、新しい杉玉に取り換えられています。

またこのまち並みには切り妻造り平入りや中二階建て本瓦葺きで煙出しを備えるなど、重厚な商家の建物が連なり、参加者は説明を聴きながら一軒一軒を熱心に見て回りました。



三輪山をご神体とする大神神社の拝殿



吉野杉の葉で作られる大きな杉玉は酒造家の象徴



切り妻の本瓦屋根に白い漆喰壁が美しい三輪界隈



新委員長紹介

資材・流通委員長が交代し、入山 朋之・大建工業(株)情報渉外部長が就任した。新委員長に今後の委員運営や抱負を語ってもらった。



住み手の感性に 響くような訴求を 目指す

資材・流通委員長に就任した
入山 朋之 (いりやま・ともゆき) 氏
49歳 大建工業(株)情報渉外部長

【経 歴】

愛知県出身

1996年 名古屋大学農学部林産学科卒業

1998年 名古屋大学生命農学研究科修士課程修了

1998年 大建工業(株)入社、住宅研究所配属

※前々任者の長谷川賢司氏は、入社時の直属の上司

大建工業(株)では、長く研究開発業務を担当し、2010年には木造住宅の耐震性評価に関する博士号(工学)を取得しました。その後、開発企画部やR&Dセンター、高萩工場を経て、今年4月から情報渉外部長に着任しました。

木住協との繋がりとしては、開発企画部時代の2013年から3年間、技術開発委員会に委員として参加していました。

【資材・流通委員長としての抱負】

資材・流通委員会では、新年度の重点事業計画(案)の中で、来年度に実施予定の第7回国産材利用実態調査に向けて、これまでの調査結果を踏まえて調査票を見直していきます。これまでの成果に対しても「木住協が国産材利用の

実態を取り纏めることが非常に意義のあることだ」との意見を委員の皆様からも頂きました。調査結果は、国産材利用促進だけでなく、木材の炭素貯蔵量の把握という観点からも有用な基礎データとなります。

昨年10月に発足した資産価値のある高耐久住宅研究WGでは、高耐久化に必要な建物外皮を構成する高品質建材・工法の仕様を検討してきました。引き続き仕様の検討は進めますが、本WGの中で、高耐久木造住宅の「寿命」を定義して、部材メーカー、住宅メーカー、お施主様が同じイメージを共有できるような訴求をしていきたいと思っています。

個人的には、「炭素を固定する木材、及び木造住宅を、出来る限り長期間使用する」ことは、CO₂排出量削減に繋がるという数値的な面だけでなく、「良い住宅を、永く愛着を持って使用していく」、そんな住み手の感性に響くような訴求ができればいいなと思っています。

【個人エピソード】

中学時代は野球、高校は陸上の短距離、大学はサッカー(GK)と多種多様なスポーツを経験(今より30kg痩せてた時代の話ですが)し、数年前はロードバイクで街中を疾走していたことも。ただし、今はコロナを言い訳にサボり気味、巨大な体を持て余しています。こんな巨体ですが、お酒は下戸。更に、単身赴任期間中で料理に挑戦中、ますます体重が気になる毎日です。



新規会員紹介

2023年1月から3月までに入会されました企業を紹介します。みなさん、よろしくお願いします。

(株)市川電設

賛助会員

代表取締役 市川 雄士

全国トップレベルの実績を獲得し、携帯電話基地局工事、住宅やマンション、工場などの電気工事をはじめ、いま注目の「5G」に関する工事を手がけております。一時的な好調ではなく、景気に左右されず12年間黒字経営で成長を続けています。どんな状況でも「やればできる」を応援する会社をモットーに好調な業績はしっかり還元していきます。

〒252-0216 神奈川県相模原市中央区清新4-8-11

TEL : 042-703-1923 FAX : 042-703-1924

<https://ichikawadensetsu.com/>

(株)GLAMB

3種正会員

代表取締役 中西 克仁

不動産仲介・企画・立案・コンサルティング及び建築設計・監理から建物管理まで総合的に提案いたします。

〒462-0016 愛知県名古屋市中区西味鏡4-118

TEL : 052-325-2415 FAX : 052-325-2416

シルバニアホーム(株)

1種C正会員

代表取締役 三代川 祐

国産材100%住宅の設計・施工・販売、住宅、店舗のメンテナンス及びリフォーム。高性能・高い設計力・明朗会計の家づくり。

〒220-0004 神奈川県横浜市西区北幸2-9-10

TEL : 045-328-3912 FAX : 045-328-3914

<https://www.sylva.co.jp>

(株)土屋ホームトピア

1種A正会員

代表取締役 菊地 英也

住宅リフォーム・マンションリフォームを専門に事業展開。小規模リフォームから一軒まるごとリフォームまで、幅広いご要望にお応えしています。

〒004-0022 北海道札幌市厚別区厚別南1-18-1

TEL : 011-896-3058 FAX : 011-896-3065

<https://www.hometopia.jp>

(株)DOORDO

1種B正会員

代表取締役 浅井 勝一

当社は、大阪と東京を拠点にマンション、アパートや戸建ての設計、施工、販売、管理まで一貫して手がける不動産総合デベロッパーです。

〒543-0016 大阪府大阪市天王寺区餌差町10-65

浅井ビル

TEL : 06-6768-0009 FAX : 06-6768-9990

<https://doordo.co.jp/>

(株)ドリームネクサス

賛助会員

代表取締役 田邊 智視

様々なターゲット・業種・ニーズへのサーチ・集客に特化したインターネット広告サービス「ネクサス広告シリーズ」の企画・開発・運営を生業としております。住宅業界(マンション・戸建てなど)の導入シェアが多く、全国累積4,000案件以上の実績があります。

〒110-0016 東京都台東区台東3-46-8

WITH大橋ビルⅢー4階

TEL : 080-4115-4008

<https://www.dream-nexus.co.jp/>

(株)一石設計室

3種正会員

代表取締役 石木 恭夫

建築設計、監理(木造、2×4、S造)

〒457-0865 愛知県名古屋市南区氷室町12-23

TEL : 052-807-0223 FAX : 052-807-0223





〈茨城県笠間市〉

春風萬里荘

「春風萬里荘」は、篆刻家、画家、書道家、料理家・美食家と多方面に才能を発揮した芸術家・北大路魯山人が住み暮した建物である。もともとは神奈川県厚木近郊の大庄屋だった伊東家の居宅として江戸時代中期に建造されたもので、魯山人が自らの陶磁器を焼くために構えた星岡窯の主屋として昭和初期に北鎌倉・山崎の地に移築した。さらに魯山人の死後、日動画廊の創始者である長谷川仁が現在の笠間芸術の村に再移築したものである。

茅葺入母屋造りの豪農家のたたずまいは重厚な歴史の重みを感じさせるが、家屋の内部は独創的才気を感じさせる魯山人ならではの改装が加えられている。最大の見どころは、昔ながらの三和土の土間の左手にあるかつての厩部分である。年輪を刻んだ樺の木レンガを敷き詰めた床、自然石をそのまま組み上げた暖炉、手斧削りの棚には象の鼻を模した棚受が配されている。奥の厠には魯山人の焼いた朝顔の陶製便器が並び、風呂場は自作の織部焼のタイルが張られている。

さらに、主屋から繋がっている茶室も魯山人が自ら設計したもので、三畳控えの間、四畳半本勝手、洞庫口水屋からなり、床柱は黒柿、長押は南天の木を用いる凝りようで、千宗旦（千利休の孫）がつくった名茶室「又隠」を手本にしたといわれている。

春風萬里荘

建 築	江戸時代中期
所 在 地	〒515-0073 茨城県笠間市下市毛1371-1
電 話	0296-72-0958
入 館 料	大人 700円、65歳以上600円、大高生 500円、中小生200円
開 園	午前9時30分～午後5時（冬季は午前10時～午後4時）
休 園 日	毎週月曜日（祝日の時は翌日） 年末年始
所 有 管 理	笠間日動美術館

<https://www.mokujukyo.or.jp>



一般社団法人

日本木造住宅産業協会



木 芽

2023年4月20日発行

Vol.184

発行人 越海 興一

編集 業務・広報部

〒106-0032 東京都港区六本木1-7-27 全特六本木ビル WEST棟2階

電 話 03(5114)3010(代) FAX 03(5114)3020